

公開シンポジウム「情報技術による持続可能な食料生産システムの展望
- 東アジアにおける科学技術戦略 -」の開催について

1. 主 催 日本学術会議農学基礎委員会 農業情報システム学分科会
日本学術会議農学基礎委員会・生産農学委員会合同 C I G R分科会
2. 後 援 日本農業工学会
3. 日 時 平成19年3月29日(木) 13:00~16:30
4. 場 所 日本学術会議6-C(1)(2)(3)会議室(6階)
5. 次 第

開催趣旨

日本の農業は労働力不足が逼迫しており、農業生産の軽労化、省力化は我が国の食料生産の安定化を図る上で不可欠である。また、近年では生産活動による環境破壊も指摘され、持続的な食料生産システムの構築が求められている。

ITを活用した農業は、次世代の生産技術として期待される一方、持続性が担保できる科学技術戦略と導入効果を最大化できる社会システムの設計が不可欠である。今日、日本に限らずアジア諸国は様々な食料問題を抱えており、とりわけ中国、韓国はITを高度に活用した生産システムへの期待が大きい。本シンポジウムは、中国、韓国を代表する研究者との意見交換を通して、東アジアにおける食料生産技術の将来展望について議論する。

開会あいさつ：野口 伸(北海道大学大学院農学研究院教授，日本学術会議会員，
日本学術会議農業情報システム学分科会委員長)

I 講 演 (13:10~15:10)

- 1) 梅 田 幹 雄(京都大学大学院農学研究科教授，日本学術会議連携会員，
日本学術会議農業情報システム学分科会委員)

「日本農業におけるIT活用の必要性和その可能性」

- 2) Maohua Wang(中国農業大学教授，中国工学アカデミー会員) 【英語】

「中国農業におけるIT活用の必要性和その可能性」

- 3) Sang-Ryong Suh(国立全南大学教授，韓国農業機械学会会長) 【英語】

「韓国農業におけるIT活用の必要性和その可能性」

- 4) 野 口 伸

「空間情報を基軸とした次世代フィールドロボティクス」

II パネルディスカッション「ITによる食料生産のサステナビリティ」(15:20~16:20)

コーディネータ：村 瀬 治 比 古(大阪府立大学教授，日本学術会議連携会員，
日本学術会議農業情報システム学分科会委員)

パネリスト：梅 田 幹 雄，Maohua Wang，Sang-Ryong Suh

閉会あいさつ：町 田 武 美(茨城大学農学部教授，日本学術会議連携会員，
日本学術会議農業情報システム学分科会委員)

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

北海道大学大学院農学研究院 生物生産工学分野 ビークルロボティクス研究室

E-mail: SCJ-symp@bpe.agr.hokudai.ac.jp Fax: 011-706-4800

*定員(150名)となり次第、締め切りとさせていただきます。